

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070200437		
法人名	松本社会福祉協議会		
事業所名	夢ハウスおおくぼ		
所在地	松本市蟻ヶ崎2139-1		
自己評価作成日	平成21年7月24日	評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070200437&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070200437&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年8月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元気な人が多いので入居者間のいさかきもありません。山の中で自然に恵まれた環境をいかして、朝、夕散歩につれだします。毎週1回はドライブと買物に外出を計画します。みなさんが外出はとても喜び、ストレスを解消します。血圧も安定し、安眠剤も少なくなりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然環境豊かな木立の中にあり、民家をそのまま利用した、自然体の馴染みやすい住環境を提供している。日々の支援に於いては、食生活を大切に捉え、食材の買い物や食事・おやつ作りを利用者と共に楽しみながら提供している。また法人の有する機能を活用し、看護師の毎週の訪問や法人のワゴン車での外出がスケジュールに組み込まれ、買い物やデイサービスのお風呂での入浴を楽しむ等の柔軟な支援が行われている。その他、ホーム周辺の自然環境を活かした毎日の散歩は、四季折々の楽しみや、利用者の心身の健康維持への支援となっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

1階ユニット

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れたところで、心豊かに安心して生活し続ける事ができる様に職員は支援する。	開所当初よりグループホームは地域の協力無しには成り立たないという考えのもとに「心豊かに共に生活し安心と安らぎの場」の理念を掲げ、法人・管理者・職員は理念を共有し、地域との関係性を大切にしたい支援を継続している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し町会費を納入し、地域の清掃など、地域の一員として参加している。	地域の一員として「放光寺町会」に加入し地域の清掃などに参加している。隣接した民家が殆どないため、隣近所の日常的なつきあいは望めないものの、毎週月曜日は外出の日とし、買い物や福祉広場の利用など地域に積極的に出向く取り組みをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回、地域のふくし広場の行事に参加、敬老会ふれあい会食会、文化祭に参加している。人材育成として実習生の受入を常に行っている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実績、取り組み状況を報告し、話し合い、意見をサービス向上に活かしている。	昨年度の評価を踏まえて、運営推進会議の開催を位置づけ、今年度は年に3回開催(利用者を交え午前開催)。会議の意義・ホームの現状などを報告すると共に議題を示し、話し合いが行われている。そこで出された意見をサービスに反映している。	会議に於いては“地域との係わり・災害時の対応について”等の議題を提示し、話し合いが行われている。今年度は更に自己・外部評価の意義・結果等を報告し、気づきや課題に対しての意見交換を行い、一体となって取り組まれていく事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回介護相談員が訪問、市の生活支援係りが訪問、市ケースワーカー、包括支援員も必要時に訪問する。	当法人は市社協ということもあり、日頃から市担当者との情報の共有などが行われている。また利用者の権利擁護に関する支援員の訪問もあり、利用者ごとの必要な支援へ向け協力している。	

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由を束縛しないように、常に問いかけをして、安全面に配慮して、自由な生活ができる様に配慮している。	民家をそのままホームとしており、家で普通に暮らす生活の姿・環境がある。玄関はチャイムが鳴るようにしてあり、鍵は掛けない。また気の合う利用者間の部屋への行き来もあり、自由な生活を支援している。	現在取り組まれている配慮や質を保ちながら、まず認知症及び認知症ケアマニュアル整備を進め、限られたケースに於ける例外も含めて、身体拘束をしないケアの理解や実践について、全職員で確認・話し合い、今後へ向けた取り組みを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が常に入居者の声を聞くように指導している。対応が必要と思われる入居者に対しては、随時、職員に説明指導している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者6名のうち5名が権利擁護を利用している。2名が成年後見人を依頼中。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や対応可能な範囲についてを説明を行い了解してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自身の思いや要望を常に問いかけて、嫌がること好む事などを把握し、入居者主体の運営を行っている。	利用者へは、それぞれの思いに寄り添い把握をしながら日々の支援へ繋げている。ご家族に対しては、外部へ表せる機会を設けると共にご家族参加の焼肉会・お花見会や介護計画書の説明時などを利用し、ご家族の意見をいただき、反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを心がけ、問いかけたり、聞き出ししたりしている。ノートにも記入してもらい、日常業務に反映させている。	多くの常勤・非常勤職員が関わり、運営をしている。職員が日々記入できるノートの活用や、管理者が日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の意見などを聞くようにしている。	管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心がけているが、言い難い事項や職員体制などを考慮し、日々関わっている全職員の意見を十分に聴く機会の工夫が望まれます。

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向に沿うように職場環境、条件を考慮している。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の職種と兼務の人が多いため、なかなか大変ですが研修会に出席できる様に、手当て、勤務時間等に考慮しています。研修報告を全員が閲覧できるようにしている。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加していないが情報は提供している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止めて、ここが安心して暮らせる場所だと思ってもらえるように、対応に気を付けます。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経過を聞く様になっている。事業所としてどのようなお手伝いができるか相談する。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思いを確認し、支援に必要なサービスにつなげるようにしている。		

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活する場所との認識が職員にあるので、お互いが共働しながら穏かな生活ができるように声かけしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時には、本人の状態を報告いたします。お彼岸、お盆など松本に来る時には家族と一緒に墓参りにいきます。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆にはお坊さんをお願いして法要をしたり、入居者の家族のお墓参りにいきます。知人との電話や手紙の支援をしています。	知人との電話や手紙のやりとり、お墓参りや毎週買い物に出かける等の支援をしている。毎年お盆には祭壇を設け、お坊さんが来て法要をしていただき、なじみの風習を継続している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒におしゃべりしたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせるように、職員が調整役となって支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所や死亡が退所理由なので関わりがなくなる。亡くなった人は新盆にお参りに行く。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってどこで、誰とどのように暮らす事が最良なのか職員間で検討しているが、本人は家に帰りたがるが娘が受け入れられないので、本人本位と言う訳にはいかない。	ご家族や関係者から情報を得ると共に、職員は日々の関わりの中で本人の思いを受け止めるように努めている。	

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を知れば、その人の言語や行動も納得できる、昔の事を話せるような言葉かけなどを工夫する。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が常に一緒にやっている事で、出来ない事よりも出来る事に注目して、その人を把握する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている、家族には訪問時に介護計画を提示して了解してもらっている。	介護計画書作成にあたり、これまでの受け持ち担当制を廃止し、専任担当者が作成に当たるように変更した。それを基にご家族や職員の意見を聞き反映させるようにしている。現状に沿った方法を試みながら取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日に記録に記入している、気づきや注意点は申し送り帳に記入し、情報を共有して、介護計画を見直ししている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、通院など必要なサービスを支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回ふくし広場を利用して、カラオケを楽しんでいます。		

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医が定期的に往診してくれる。その他必要に応じて通院の支援をする。</p>	<p>利用者6名全員が、ホームの協力医をかかりつけ医として同意している。1.5ヶ月毎の往診と毎週の看護師の訪問により、定期的な体調管理や随時の支援をしている。その他、利用者の状況・必要に応じて通院等の支援をしている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎週1回看護師が訪問をし血圧の測定をします。入居者の身体に変化があった時は主治医につなげます。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族と相談しながら、支援をする。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応できる、体制になっていないので、他の方法を考える。</p>	<p>入居時の説明の中で、入居後、重度化した場合は、他への住み替えをお願いし、ご家族等の了解をいただいている。昨年度は1名の利用者が介護保険施設へ転居された。転居に至るまでは最大限の出来る限りの支援をしていく旨を管理者等より伺った。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時は救急車を依頼して病院に搬送する。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認をして、定期的に事業所として避難訓練をおこなっている。</p>	<p>定期的な避難訓練を行うと共に、年1回は消防署の協力を得て、夜間の場合なども想定し、職員の通報・連絡・避難誘導などが適切に行えるように見守りや指導をしていただいている。</p>	<p>ホームは一般住民には分かり難い住宅地より奥まった所に在る。様々な災害を想定し、発生時に備えて行くことが重要と考えられる。これまでの取り組みの上に立ち、さらに地域の理解や具体的な支援・協力体制が得られるよう、今後も積み重ねの取り組みを期待します。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意をはらい、自己決定しやすいように声掛けをしています。	管理者・職員は利用者一人ひとりの人格を尊重する言葉かけを行い、利用者に学ぶ姿勢を持ち、利用者の力が日常生活に発揮できるよう対応している。職員の優しい声掛け・丁寧な対応の姿が伺えた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、自己決定しやすいように声かけしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、特に押し付けてはいない。本人の希望があれば、対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、本人が決めて着替えてくる。髪の毛のカットなどは、誰かが言い出した時に行くようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物にも一緒に行き、食べたい物を購入できるようにしている。調理、盛り付け、片付けなど、利用者と共に同じテーブルで食事をして、楽しく食事ができる様にしている。	普通の家の台所・食卓を囲んでの食事という暮らしがあり、利用者と職員が協働で食生活全体を楽しみながら行っている姿が見られた。利用者ごとの力を活かしながら、職員の声かけや見守り・感謝の言葉などによって、利用者の張り合いや喜びへの支援が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回管理栄養士が訪問して、栄養指導、水分補給の指導をして、体重管理をしている。		



松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯の技工士がいるので、その職員の指導により、口腔ケアをしている。義歯洗浄機も購入して義歯の手入れをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く、トイレで排泄ができる様に、トイレの掃除をしてトイレの清潔を保っている。職員も同じトイレを使用して、清潔に気をつけている。	ホーム内に2ヶ所あるトイレを使用し、全員が自立している。夜間や外出時の支援、また今後自立困難となった時の対応なども考慮しながら、自立への支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事と、水分補給を行い、便秘対策をしている。体を動かす事の大切さも意識して取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決まっている。シャンプーと背中はお手伝いするが、その他は自分で洗っていただく。ゆっくり入りたい人は最後にゆっくり入浴してもらっています。暑い日に希望の人はシャワーを使って汗を流してもらう。	入浴の曜日・時間を決め、職員体制を整えている。入浴を嫌がる利用者は今の所いない。「温泉へ行き、大きなお風呂に入りたい」という希望があり、同法人のデイのお風呂を利用させてもらうこともある。夏季のシャワー浴や、ゆっくり入りたい等の希望に添った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のペースでお昼寝をしている。夜も熟睡できるように、日中に散歩等に連れ出している。以前は入眠剤を服薬していたが、現在は服薬者はいない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース記録にファイルして、職員が内容を把握できる様にしている。服薬時は本人に手渡して、服薬を確認する。		

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや縫い物など、出来そうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。毎週ドライブしたり、地域の行事への参加など、相談しながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週、お弁当を持って戸外に出かけるなど、機会を見つけては積極的に外出している。	少人数のメリットを活かし、ワゴン車に全員(利用者は6人)乗って、毎週月曜日は買い物やその時々に行きたい所へ出かけている。また日々、ホーム周辺の木立の中を散歩する等、積極的に外出している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時欲しい物は自分で買うようにしている。健康食品を多額に購入する人がいて、自分の金だから人に色々言われたくないとは言いが、将来の事もあるので毎月相談している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を施設にしているの、家庭的な雰囲気そのままで利用されている。	やや広めの民家・庭をそのまま利用し、玄関周辺の多少の段差も手すりをつける程度の改修となっている。入居前の家での生活の延長の様な環境であり、利用者が廊下に座って談笑する。居間で新聞を広げる等、居心地良さそうに過ごされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋が個室なので、仲の良い人同士はお部屋のベッドに座っておしゃべりしている。一人になりたい時はふすまを閉じている。		

松本市社会福祉協議会 夢ハウスおおくぼ 評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ってきたり、信仰している神さんを持ち込んだり、自分の過去を持ち込んでいる。	居室には使い慣れた筆筒、お仏壇や信仰している神様などが持ち込まれ、家族の写真を飾ったりして、その人らしさや居心地の良さが伺えた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、廊下、トイレの手すりの設置、玄関の椅子の椅子の設置など、転倒防止に取り組んでいる。		